

本文中の用語の補足説明

◆スポーツ・イン・ライフ※¹（P 5 17行目、P30 3行目）

生活の中に自然とスポーツが取り込まれていること。

◆ノーマライゼーション※²（P14 14行目）

障がいのある方と健常者とはお互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来望ましい姿であるとする考え方。

◆ユニバーサルデザイン※³（P14 23行目）

多くの方に使いやすいデザインの手法。

◆総合型地域スポーツクラブ※⁴（P16 8行目、その他）

身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

それぞれの地域において、スポーツの推進やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしている。

◆PDCAサイクル※⁵（P17 22行目）

PDCAサイクルとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のこと。

◆ソリューション※⁶（P17 28行目）

高度で難解な問題に対する具体的な解決策。

◆スポーツ推進委員※⁷（P18 21行目、その他）

地域における住民のスポーツ活動を推進するため、スポーツ基本法に基づき市区町村の教育委員会が委嘱する非常勤の特別公務員。スポーツを推進する事業の実施における連絡や調整、住民に対する実技の指導や助言を行う。地域住民と行政との隔たりをなくし、スポーツ施策を活発化させる役割を担っている。

◆ビジネスパーソン^{*8} (P23 13行目)

ビジネスマンとビジネスウーマンの総称。性差のない表現として用いられる。

◆くまもとスマートライフプロジェクト^{*9} (P24 13行目)

プロジェクトの趣旨に賛同する企業・団体に、その社員や職員の健康意識向上につながる啓発活動を行っていただき、また企業活動を通じて、より多くの人々が健康づくりの意識を高め、行動を変えるよう働きかけてもらうことによって、県民の生活習慣の改善、ひいては健康寿命をのばすことを目的とした取組み。

◆フットパス^{*10} (P24 22行目)

森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと。

◆FUN+WALK PROJECT^{*11} (P24 25行目)

歩くことをもっと楽しく、楽しいことをもっと健康的なものにするスポーツ庁の官民連携プロジェクト。

「歩く」を入口に、国民の健康増進を目指している。

◆B & G財団^{*12} (P28 3行目、その他)

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の略

青い海と緑の大地を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者までの心とからだの健康づくりを推進することを目的に設立された公益財団法人。